

「直前講義1」の質疑回答

質疑	回答	備考欄
<p>来週からは、どのように勉強すれば良いかを質問したいです。正直4択の過去問はウラ模試以外はあまりやっていないのですが、今は、ウラ模試で間違えた問題のアウトプット図を出せるように練習しています。</p> <p>適当な年度の法規の×問をやりながら、分からない問題が多かった分野を中心に教科をまんべんなく1日300～500問くらいやり、怪しい問題だけピックアップして、Excellに簡単にまとめようかと思いますがこんなかんじで良さそうでしょうか。</p> <p>勉強法に正解はないと思いますが、質問したいです。</p>	<p>この時点から、新たな知識を得る努力は不要です。これまでに取り組んだ模試があるなら、その復習(アプローチの仕方など、視点を変えて見る)をお勧めします。</p> <p>アプリで扱った問題は各自で異なりますが、「満遍なく」は賛成です。ここからは、毎日、出来る限り多くの科目(出来れば全科目)に触れるようにしましょう。頭の中の引き出しの中身を確認して、何がどんな状態で収納されているのかを確認する、必要があれば取り出しやすい状態に配置し直しておく、そんな感じです。</p>	
<p>「減法混色」の「吸収媒質」がわからなくなってしまったので解説いただけますか</p>	<p>難しい特殊な用語です。「色を吸収する媒体を重ね合わせて別の色を作ること」つまり光色の混合ではなく、絵具を混ぜ合わせるような「減法混色」の時に使う用語として割り切って覚えましょう。</p>	
<p>「免許の取り消し」について、建築士法9条と10条の部分をもう一度解説お願いできないでしょうか</p>	<p>士法9条は試験関係が理由で、士法10条は業務上の理由で「免許取消」となる場合に適用されます。士法10条第四号にあるように、後者は特別な審査会の同意が必要ですが、前者は不要です。</p>	
<p>法規の過去試験で難しかった年度はいつですか？</p>	<p>法規科目で、科目の基準点が下がったという年度はありません。高さ制限の図問題も解説集で見ると、近年は比較的スタンダードな難易度設定(3分程度で解ける)になっているのが分かります。H22やH28など、それまでの20年分の過去問の知識での得点数が低い年度もありますが、新問が難問とは限らない(実際には多くの受験生が得点できている)ので、その点は気にしなくて構いません。</p>	
<p>今更ながら当日の休憩の取り方がかなり重要だと実感しています。どうしても構造・施工まで集中力が保てないのが一番悩みどころです。適度に休憩をとり血流変えるのもやってみたいと思います。ありがとうございました。</p>	<p>自分では集中しているつもりでも、既に脳が疲労していて集中を欠く場合があります(そういう時にケアレスミスをしやすい)。人の集中力はよくて60分程度という事を考えると、試験中に、意図的に集中を開放して、数秒間でもリラックスする時間を作る事で、継続疲労によるダメージ軽減する事をお勧めしています。講義中にお伝えした「筋弛緩法」は、その場で出来るので上手く活用してください。(参照→)</p>	<p>https://handa-sh.aichi-c.ed.jp/img/04kinshikan.pdf</p>
<p>アプリの上位順位が結構ばらつくのですが、到達度の相対順位をどうとらえて良いのかわかりません</p>	<p>アプリの理解進捗度などの指標は、「何番以内なら合格率〇%」といった占いのような指標ではありません。個人の学習継続に繋げるためのツールです。励みとなるものであれば活用する、という認識で捉えてください。</p>	
<p>一概にどちらが良いとは言えないと思いますが、残り1週間、1問1問ある程度じっくり解くのと、できるだけたくさん1日300～400問とか解くのと、どちらが良いとありますかでしょうか？</p>	<p>直前期は、毎日多くの科目に触れる事をお勧めしますが、他の人が言う事よりも、「今、自分はこれをやった方が良い」という感覚、これまでやってきた延長線上での決断を信じましょう。</p>	
<p>昨年受験した際、試験時間中、受験生の方たちが自由に教室を出入りしていました。私は出入口のそばの席だったため、他の資格試験では、このような経験がなかったため、集中できませんでした。気を散らさない方法があれば、アドバイスいただけるとありがたいです。</p>	<p>原則としてダメなはずですが。余程の事があれば試験官に注意してもらおうケースもあるでしょうが、大事な事は「試験当日は、いろんなトラブルが起きるもの」という前提でいる事と、「自分は何があっても動じない」という心構えで挑む事です。自分で変えられない要素があるなら、それをどう受け止めるか・受け流すかを考えた方が賢明です。1日を通して「高ぶる事なく、平静でいる事」は、それだけで有利な展開を生みます。</p>	